

1:25,000地形図 NI-54-32-7-3.11-1  
しづおかとうぶ (静岡7号-3.11号-1)

# 静岡東部

5238-33-34

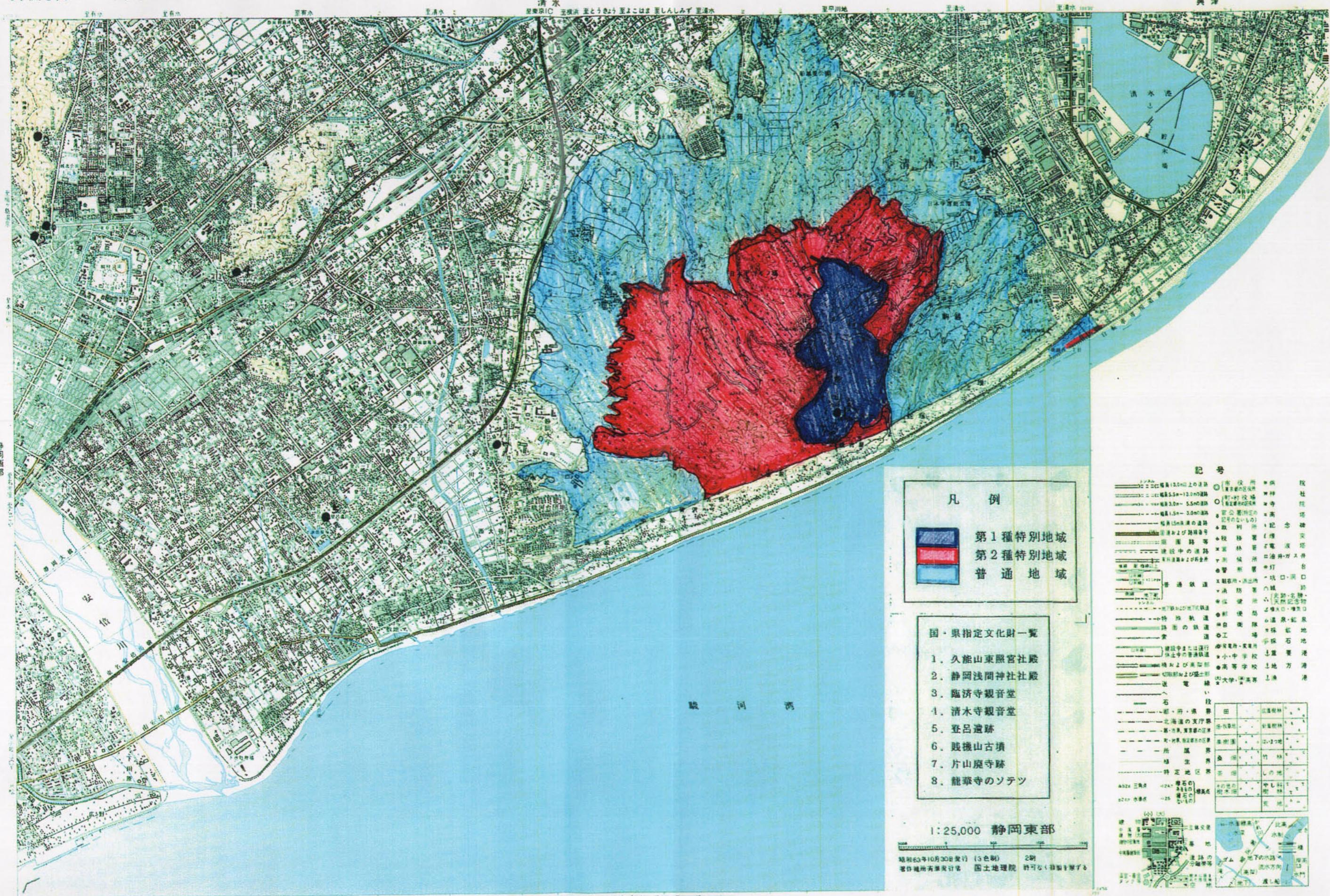


図 1-10-1 ② 法指定状況図(第2回・静岡県)

### 1-11. 広域モニタリング地域における人為的インパクトの整理

静岡県は最大の割合を占めるのは「建物用地」であり、都市的な環境で自然度は非常に低い。調査地域では、特に静岡市内の東海道線静岡駅周辺および、清水市の静岡鉄道本線草薙駅周辺に人口が集中していたが、海岸低地を除くほとんど全域に人為的インパクトが及んでいた。人為的インパクトは、市街地では土地造成、工業用地開発、道路開発、鉄道開発が、日本平ではゴルフ場開発などの観光地開発と林業開発などが見られた。これらの人の人為的インパクトにより森林および田畠の面的喪失、線的喪失と分断化が進んだ。

調査地域における人為的インパクトによる森林の分断を評価する指標として、森林の連続性を示す CON 値を用いて調査し（参考文献 1. 参照）、その結果を図 1-11-1 に示した。

調査地域ではほとんど森林がなく、わずかに日本平周辺に分布するのみである。このわずかに分布する森林も周辺の市街地および農地により孤立化している。

また、調査地域における森林の連続性を周辺の地域と比較するため、調査地域周辺 10km × 10km、50km × 50km、中部地方全体についても同様に CON 値を用いて調査し、その結果を表 1-11-1 および図 1-11-2～図 1-11-4 に示した。

表 1-11-1 から、森林グリッド率は調査地域ではわずかに 10.0% で、周辺と比べても非常に森林が少ない。面積が広くなるにつれて森林グリッド率は高くなり、広域モニタリング調査地域周辺 10km × 10km の範囲では 35.6%、広域モニタリング調査地域周辺 50km × 50km の範囲では 68.1%、中部地方全体では 69.6% となった。調査地域の森林グリッド率は、中部地方の平均値のわずかに 1/7 であり、調査地域が中部地方において特に森林の少ない地域であることを示している。

さらに CON 値についてみると、森林グリッド率と同じく、広域モニタリング調査地域が最も低く 3.29 で、面積が広くなるにつれて CON 値は大きくなり、中部地方全体では 7.75 となった。このように調査地域は、中部地方において特に森林面積が少なく、森林の連続性も少ない、非常に都市化の進んだ地域であることがわかった。

表 1-11-1 中部地方における森林の連続性の比較

統計値	対象範囲	10km	50km	地方全域
森林グリッド率	10.0%	35.6%	68.1%	69.6%
CON 値の平均	3.29	6.78	7.55	7.75



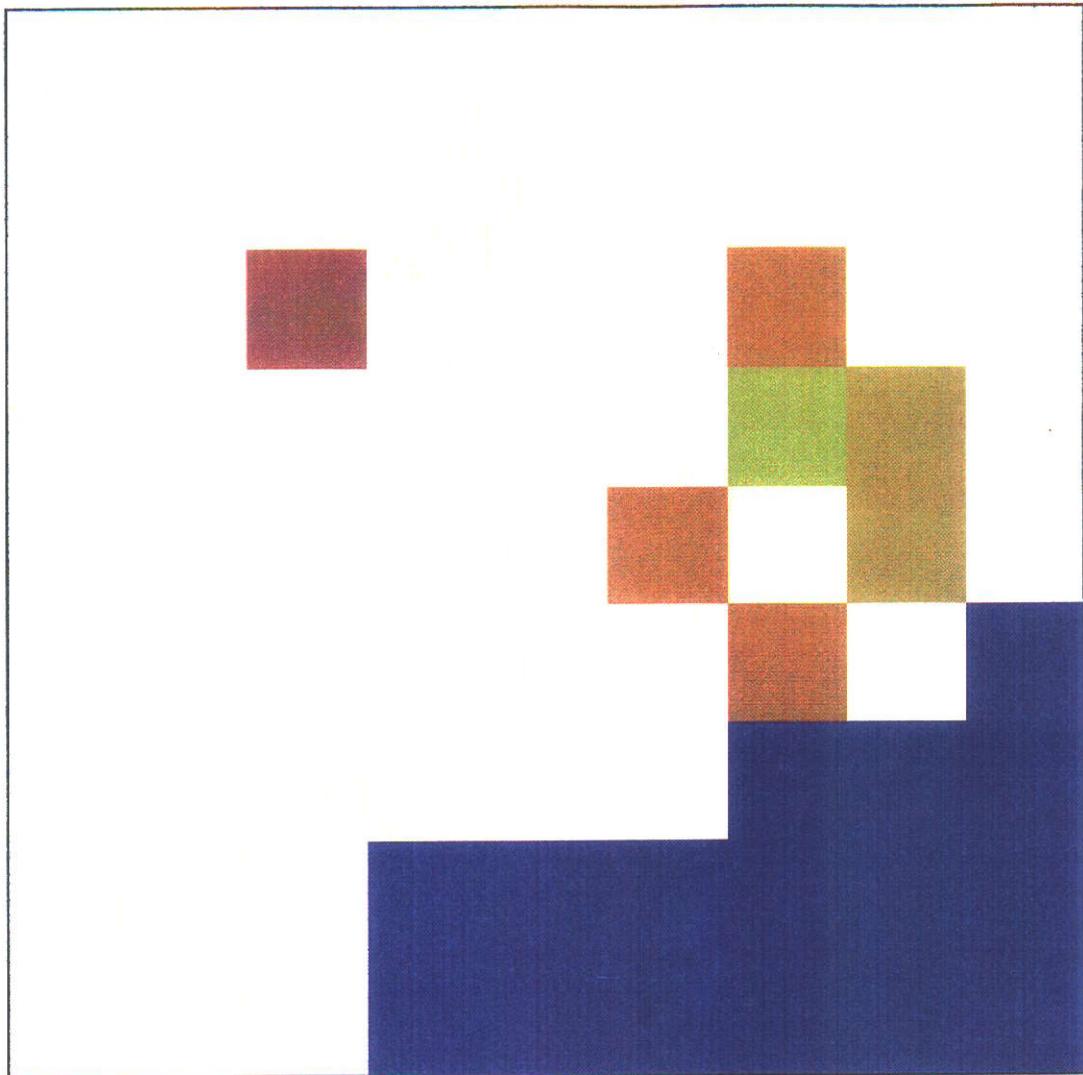


図1-11-1 対象地域のCON値分布図(静岡県)

□	0	各種統計値
■	1	森林グリッド率 10.0%
■	2	CON値平均 3.29
■	3	CON値標準偏差 0.52
■	4	
■	5	
■	6	
■	7	
■	8	
■	9	
■	98	

凡例は、上のとおりである。CON値98とは、開放水域を示す。

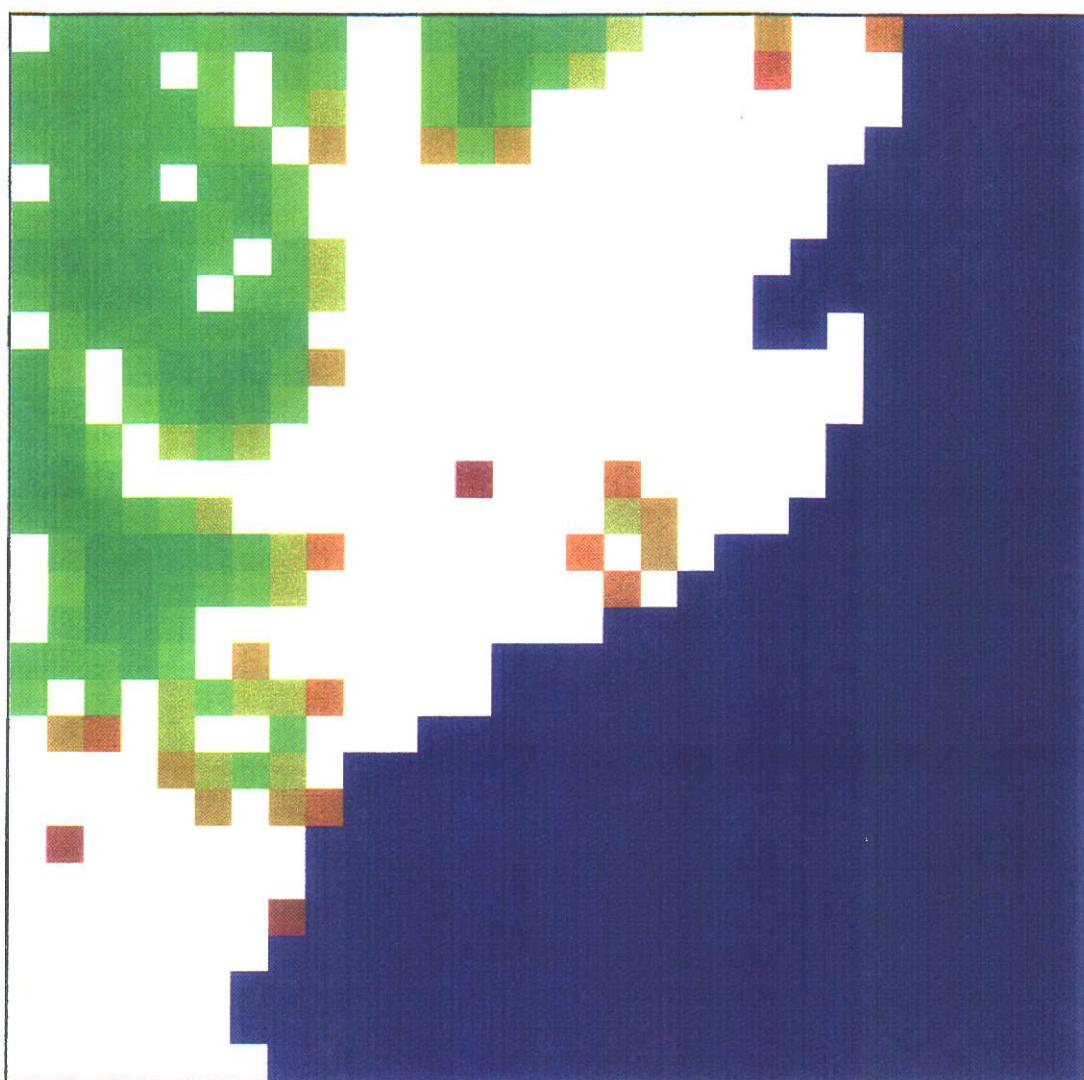


図1-11-2 対象地域周辺10km×10km範囲のCON値分布図(静岡県)



凡例は、上のとおりである。CON値98とは、開放水域を示す。

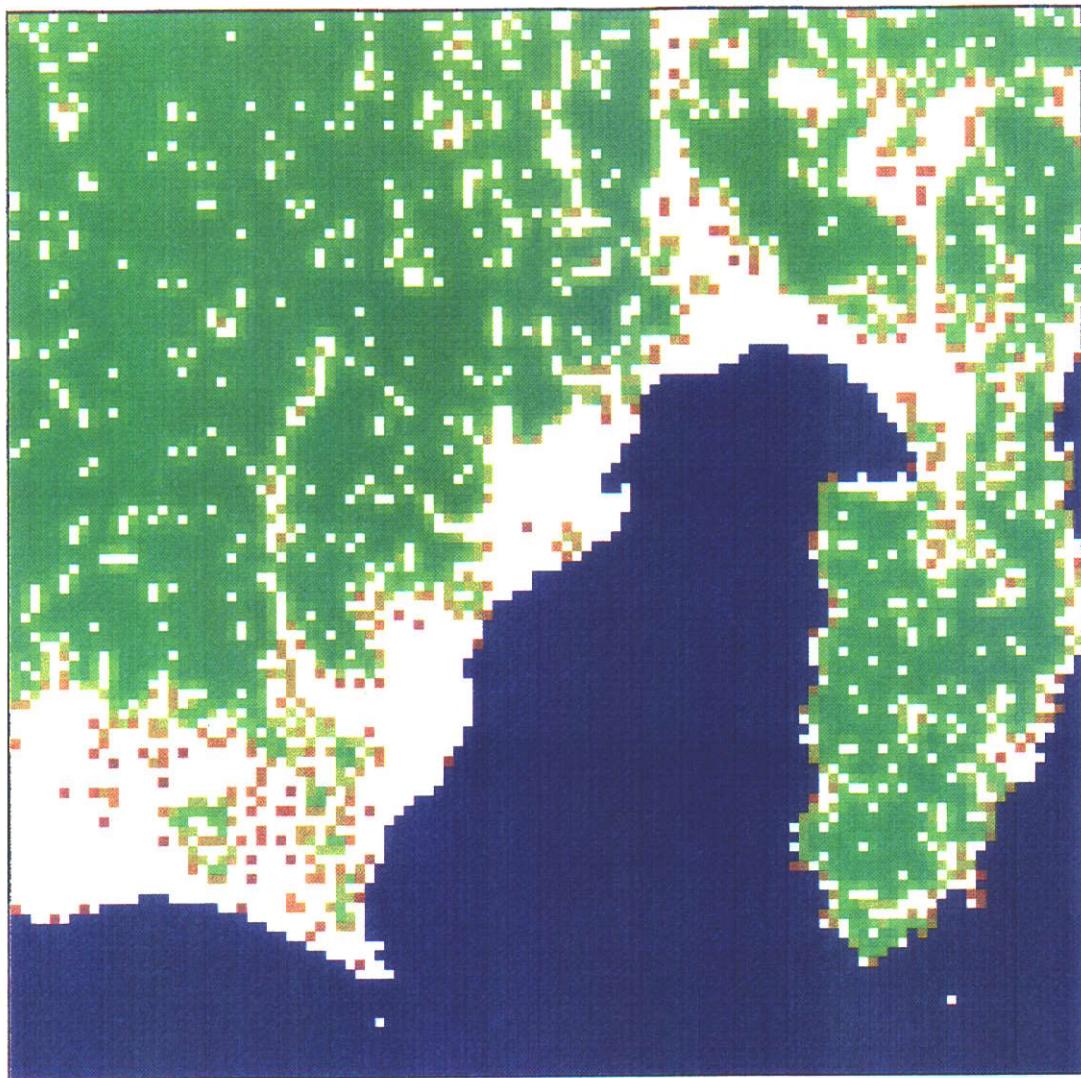
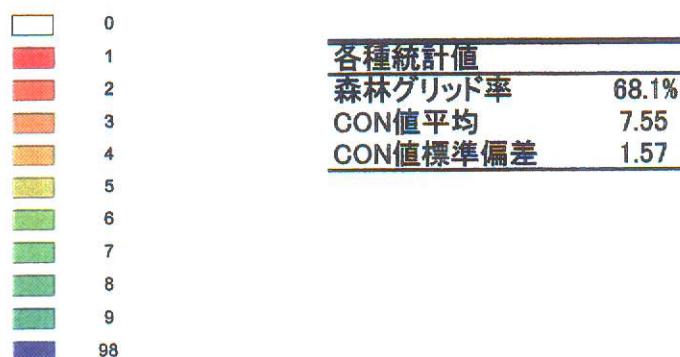


図1-11-3 対象地域周辺50km×50km範囲のCON値分布図(静岡県)



凡例は、上のとおりである。CON値98とは、開放水域を示す。



図1-11-4 中部地方のCON値分布図(静岡県)



凡例は、上のとおりである。 CON値98とは、開放水域を示す。